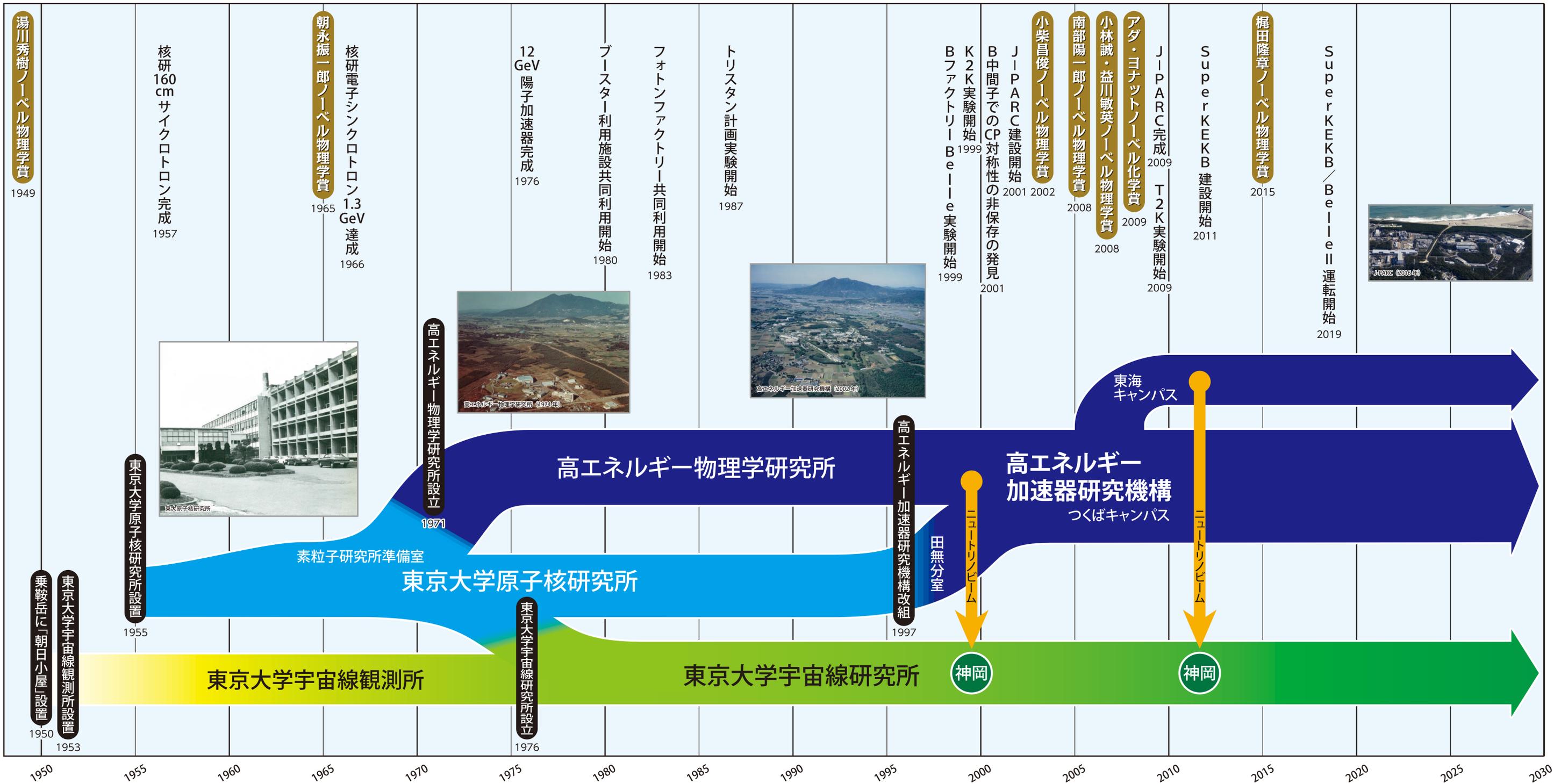


# 高エネルギー加速器研究機構のなりたち



現在筑波研究学園都市の北端にあるこの研究所(KEK)が設立されたのは1971年(昭和46年)のことでした。しかし、突然これだけの施設ができたわけではありません。1955年(昭和30年)に東京都田無町(現在の西東京市)に建設された東京大学原子核研究所(通称:核研)がその母体になっています。日本における加速器を使った研究の伝統は第二次世界大戦の終結前からありましたが、結びつきの強さから見ると、核研からKEKへの筋が今のこの研究所の流れを形作っています。

上の図はその系譜を説明しています。東京大学原子核研究所には加速器を使った素粒子・原子核を研究する部門以外にも、宇宙から降り注ぐ膨大な量の粒子(「宇宙線」と呼ばれる)を研究する部門がありました。その部門は東京大学の宇宙線の研究施設と合同して新しく東京大学宇宙線研究所となりました。

KEKは、陽子加速器、電子・陽電子加速器を建設し、中性子、ミュオン、X線、ニュートリノなどのビームを創出する一大実験施設へと発展しました。この施設を利用しようと国内外から多くの研究者が訪れるようになり、国際的な共同利用の研究所となりました。

2005年(平成17年)に、KEKは東海村にもキャンパスを持ち、日本原子力研究開発機構と合同で大型陽子加速器施設J-PARCを建設し運営しています。そこでは、素粒子物理学、物質科学、生命科学におけるさまざまな成果が生み出されつつあります。